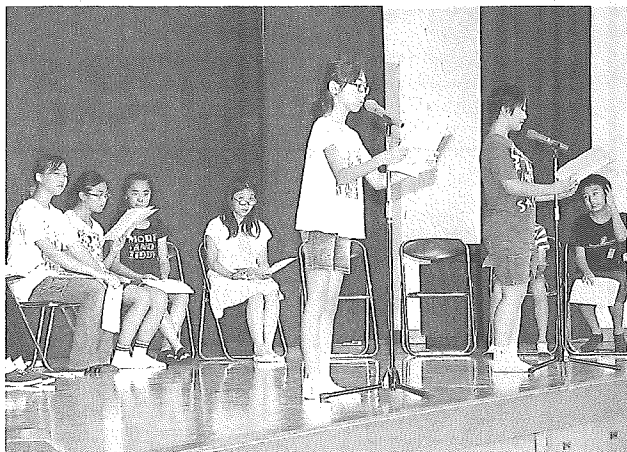


佐賀市

被爆体験の朗読劇

赤松小 子ども探す母表現

佐賀市の勝治校長は9日、被爆者の手記を基にした朗読劇を開いた。6年生8人と朗読の市民グループ



原爆被爆者の手記を朗読する赤松小6年の児童
—佐賀市中の館町の同校

ループが被爆直後の様子や親子のやり取りを伝え、原爆の恐ろしさや、平和の尊さを訴えた。放送委員会を中心とした6年生が、広島にいた被爆者17人の被爆直前の生活や、「ピカリと光った」という原爆投下の瞬間を描いた様子を丁寧に読み上げた。朗読の会「漣」のメンバー4人も全身が焼けただれた子どもたちや、「うちの子知りませんか」と我が子を必死に探す母親の姿を表現した。

3、6年生395人が真剣な表情で聞き入った。朗読した6年の納富玲伎さん(11)は「自分たちより小さな子どもたちも死んでいて悲しい。原爆はこの世からなくなっただけいい」。漣の田中亮子代表(7)は「命の大切さや親の愛の深さを少しでも感じてもらえたら」と話した。赤松小は毎年8月9日、全校登校日に合わせて戦争体験者の講演など平和学習を実施している。(大塚堅志)